

# 日本語の並列構造をめぐる 諸問題

中俣尚己(京都教育大学)

[nkmt\\_n@yahoo.co.jp](mailto:nkmt_n@yahoo.co.jp)

# 本日の流れ

- 1 並列構造の特異性
- 2 「と」と「や」の構造と意味
- 3 並列表現の体系（おまけ）

# 本日の内容は.....

- 基本的に発表者の博士論文ならびに中俣尚己(2015)『日本語並列表現の体系』による。
- 「日本語にはなぜこんなにたくさん並列表現があるのか？」というのが大きな問い。
- 本日の発表内容は、その本質は同じだが、一部提案を修正したり、コーパス調査による補強を行っている。

# 1. 並列構造の特異性

1. 1 並列構造の定義

1. 2 並列構造はなぜ特異か

# 1. 並列構造の定義

- モノの並列

- おじいさんとおばあさんが済んでいました。  
(名詞句レベル)

- コトの並列

- おじいさんは山へ行き、おばあさんは川へ行きました。(節レベル)
- おじいさんは芝を狩りました。そして、おばあさんは洗濯をしました。(文レベル)

※英語は全部and。

# モノの並列の定義（中俣2015:9）

- 2つ以上の異なる名詞句が同じ1つの述語と結びつきうる時、さらに共通の格を付与されうる時、その名詞句は並列関係にある。
- この定義は
- 以下のようなものを含む。
  - おじいさんとおばあさんがいた。
  - おじいさん、おばあさんが見えた。
  - おじいさんが、おばあさんが、走りだした。

## (参考)

### コトの並列の定義(中俣2015:10)

- 2つ以上の異なる事態の時間的前後関係が解釈の際に問題にならない時、その事態は並列関係にある。
- モノの時は論理的だが、コトになると意味的になっている。「しかし」や「その後」を「並列」と呼ぶかという問題。
- モノとコトで統一的な定義は不可能。

# 1. 2 並列構造はなぜ特異か

- 統合的關係 (syntagmatic relation)



- 太郎が ボールを 蹴った。  
動作主 対象 述語



# 1. 2 並列構造はなぜ特異か

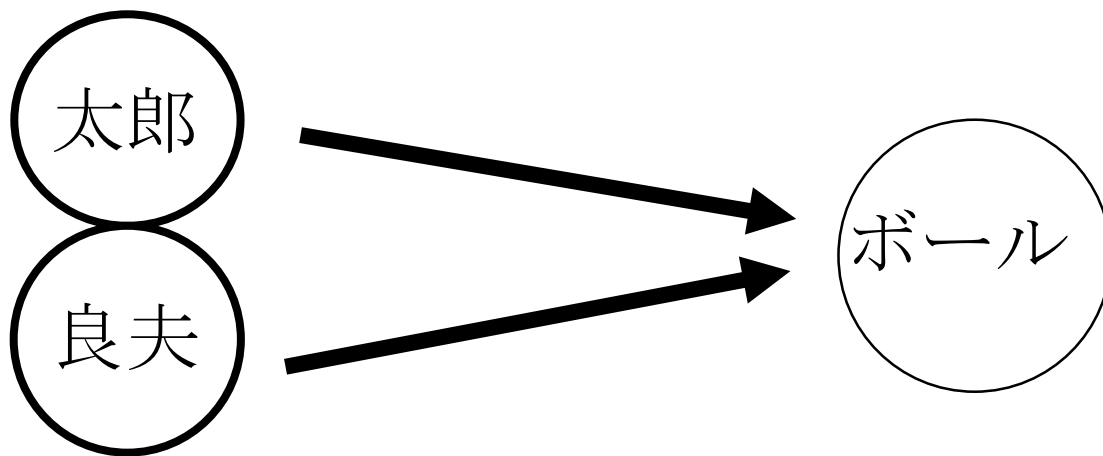
- 範列的關係 (paradigmatic relation)

- 太郎も ボールを 蹴った。

芳雄

和久

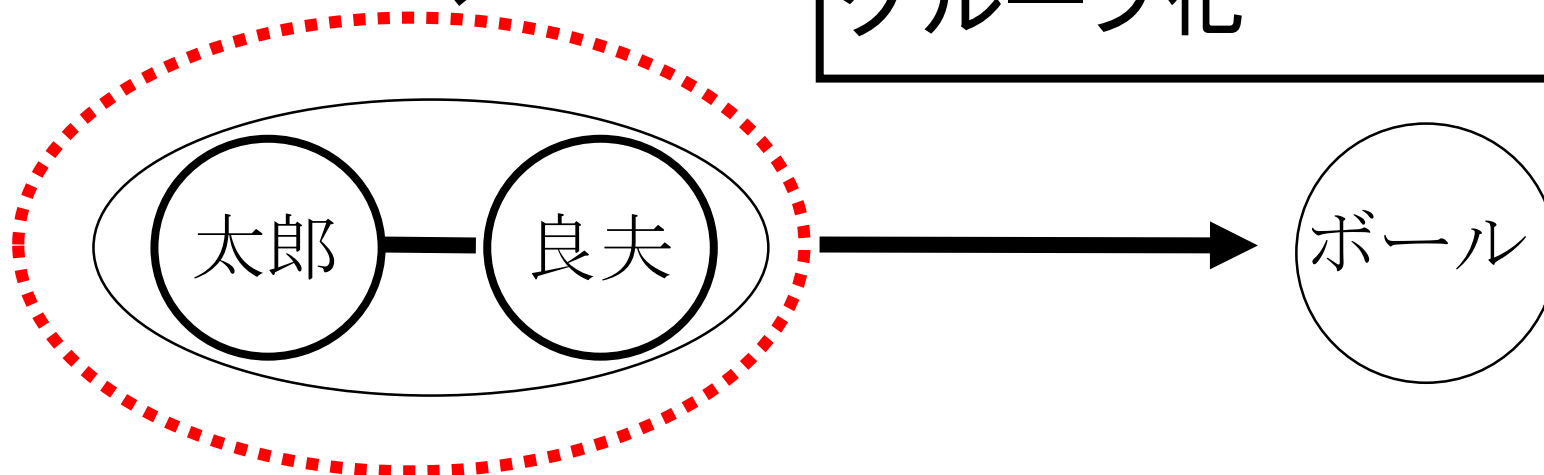
# モノの並列が「一網羅性」であるコトの動機



~~太郎  
良夫~~がボールを蹴った。

# 言語の線条性にしたがって理想化

話し手が頭の中で  
グループ化



太郎，良夫がボールを蹴った。

本来、範列的關係であった名詞句を、  
無理やり統合的關係に並べなおしている。

# 並列関係は非現実性を 帯びることがある

(1) 私は毎日ビールやワインを飲む。

- 「私」と「ビール」、「私」と「飲む」は必ず同じ時空間になければ真とはならないが、「ビール」と「ワイン」は同じ時空間に存在しなくても真となる。

(2) 私は毎日ビールとワインを飲む。

## 2. 「と」と「や」の構造と意味

- 2. 1 並列構造を論じる際の3つの観点
- 2. 2 語用論レベル: 排他的推意の違い
- 2. 3 統語論レベル: 網羅性の違い
- 2. 4 意味論レベル: 集合の形成動機の違い
- 2. 5 結論

## 2. 1 並列構造を論じる際の 3つの観点

- 統語レベル.....「網羅性」  
「事態の提示方法」
- 意味レベル.....「集合の形成動機」
- 語用レベル.....「排他的推意」

# 統語レベル・意味レベル・語用レベル

統語レベル

ぶどう

りんご

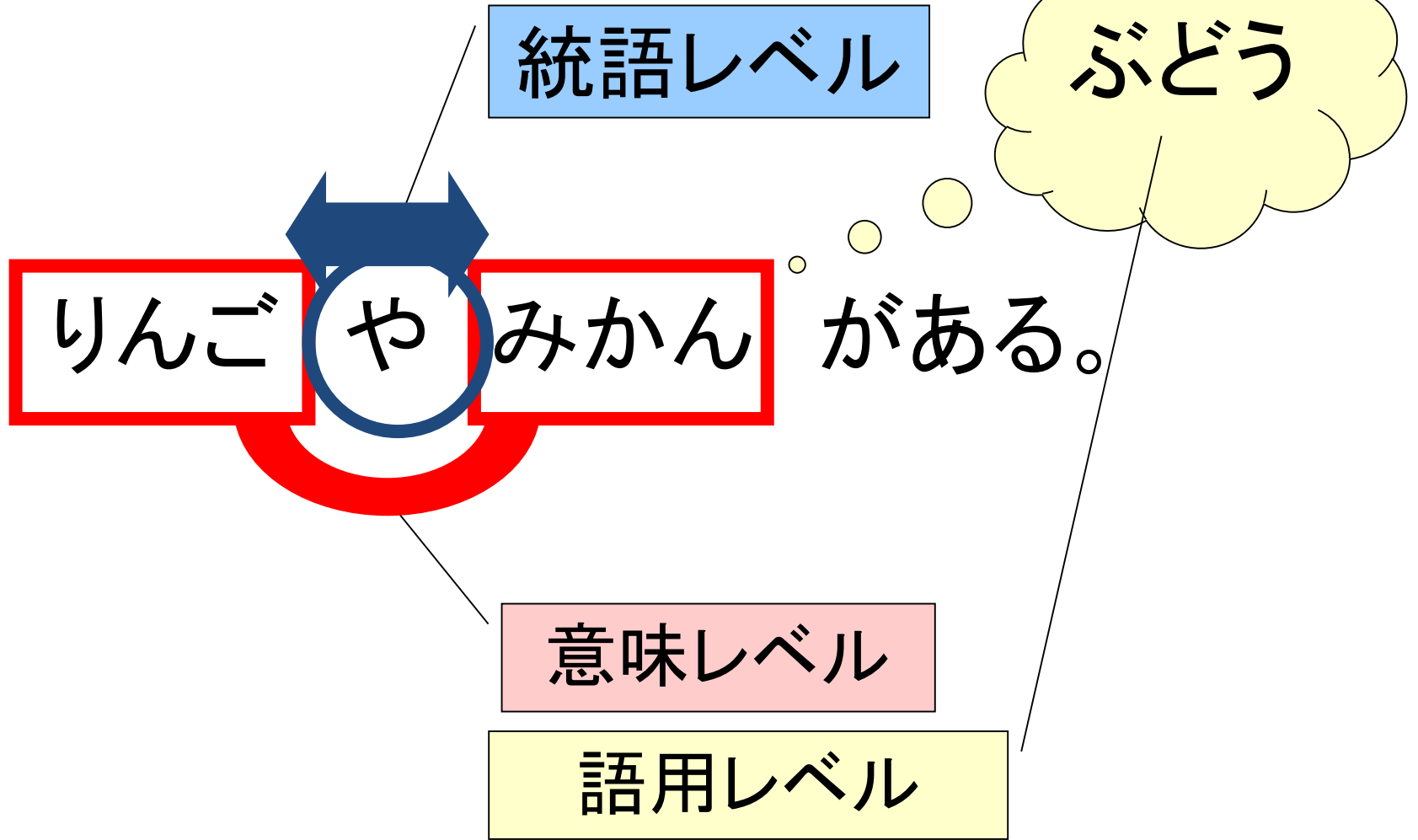
や

みかん

がある。

意味レベル

語用レベル



## 2. 2 語用レベル: 排他的推移

全部列挙・一部列挙という説明(寺村1991)

全部列挙

・机の上にりんごとみかんしかない場合

→りんごととみかんがあります。

一部列挙

・机の上にりんご・みかん・ぶどう・なしがある場合

→りんごやみかんがあります。



# 反例が存在

(3) 自治体職員が本来、昼間に取得すべき  
休息時間を、勤務時間の開始直後また  
は終了前に設定している自治体が全国  
の3割近くに上ることがわかった。一部  
の職員はこれを悪用して日常的に遅刻  
や早退している。

(『毎日新聞』2002年1月4日夕

全部列挙としか考えられない

本研究の枠組み:「排他的推意」の有無

「と」.....「排他的推意あり」

他にはないだろう, という推意

「や」.....「排他的推意なし」

他にもあるかも, という推意

推意(implicature)なので  
キャンセル可能(cancelable)

# 本研究の主張

- 「や」の本質的な性質はもともと同類のものからいくつかの例が例示されるという意味を構成する点にあり、他にもあるという意味、すなわち別要素暗示という意味はそこから出てくるといえる。  
(森山:2005)
- 「一部列挙」「全部列挙」は形式がコードする意味ではない。
- 「と」と「や」の統語的、意味的な性質の違いが、全部列挙・一部列挙という解釈の違いを生んでいる。

## 2.3 統語レベル：網羅性

- どのような場合でも並列されたすべての要素がセットとして扱われ、述語ならびに他の要素すべてと結びつく性質を「網羅性」と名付ける。(中俣2015:23)

# 現象の確認(中俣2015より)

- 反復生起

- (4) 私は毎日ビールととワインを飲む。(＋網羅性)
- (5) 私は毎日ビールやワインを飲む。(－網羅性)

- 複数個体

- (6) 参加者たちはビールととワインを飲んだ。(＋網羅性)
- (7) 参加者たちはビールやワインを飲んだ。(－網羅性)

- 単一個体かつ単一事態の場合は排他的推移を生む。

- (8) 私は昨日、ビールととワインを飲んだ。(他にない)
- (9) 私は昨日、ビールやワインを飲んだ。(他にある)

# 論理的にいえば

- 「と」は論理積をコードしている。
- 「や」は論理和をコードしている。

P	Q	$P \wedge Q$
T	T	T
T	F	F
F	T	F
F	F	F

P	Q	$P \vee Q$
T	T	T
T	F	T
F	T	T
F	F	F

# 疑問点1 論理和とは

- 「論理和」とは「両方の命題が成り立つか、どちらか片方の命題が成り立つ」関係のこと。
- 自然言語で表すとこんなに複雑になる関係を「や」という標識がコード化しているのか？

## 疑問点2 コンマ(寺村1991)の存在

- (10) 私は毎日ビール、ワインを飲む。
- (11) 参加者たちはビール、ワインを飲んだ。
- これらは非網羅的な解釈も可能。
- 非網羅的な解釈は名詞句の並列のデフォルト的な解釈では？
- 「両方」か「片方」について未指定なのがデフォルト。
- 「無標」だからこそ複数の解釈を許す。

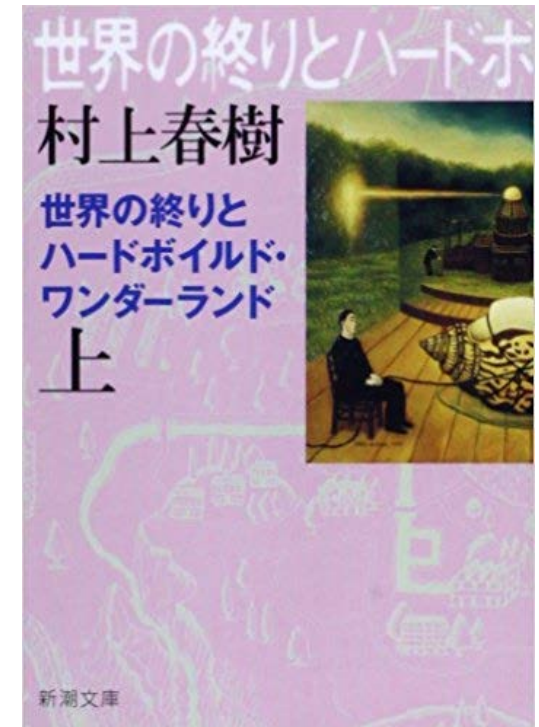
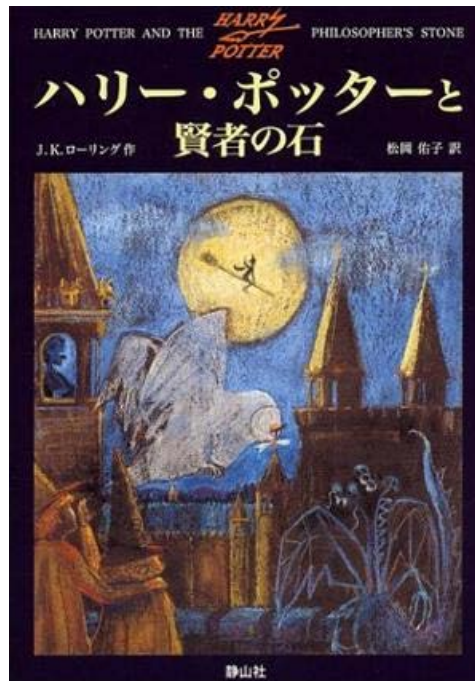
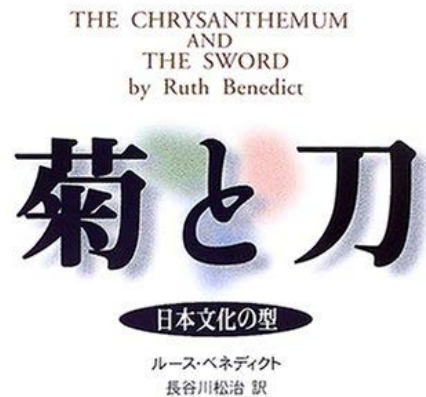


# 本発表での新たな主張

- 中俣(2015)では日本語の並列表現の分類として「網羅性」の有無を導入したが、何が網羅性のある無を生んでいるのかは未考察だった。
- 統語構造の違いが根源であると主張したい。

# 寺村(1991)の興味深い指摘

- 「と」は本や映画のタイトルに使われることが多い(p.201)



「や」は他にあるからタイトルに  
使えない？



# 中俣(2015)ではメールのタイトルも 考察

- (12) 件名 : 印刷室や資料室
- (13) 件名 : 印刷室と資料室
- (14) 件名 : 印刷室とか資料室

(12)のような件名はつけないのではないか。

- (15) 件名 : 印刷室や資料室の鍵
- 「や」は並列される要素以外の文成分を必要とする(p.63)

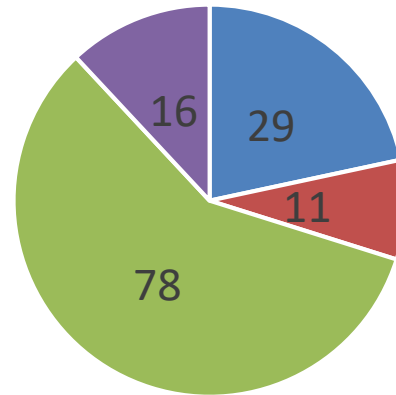
# コーパス調査

- 対象：BCCWJ通常版
- 方法：中納言2.4
  - 短単位検索モード
  - キー：文末から3語、品詞＝名詞
    - 後方1語：語彙素＝や、品詞＝副助詞
    - 後方2語：品詞＝名詞

# 総数

	NとN	NやN
全体	265,423	177,152
うち文末	4,283	134

# 文末の内訳



■ 1a連体修飾・述語 ■ 1b連体修飾・名詞  
■ 2 箇条書き ■ 3 句読点の省略

- BCCWJに裸の形の「AやB」というタイトルは1例も存在しない。
- 「と」は「家と農業」「立地と環境」「堺と茶道」など大量に存在。

# 1a 連体修飾・述語

- (16) 写真7 発芽したヨモギやタンポポ  
(LBk5\_00014 みんなでつくるビオトープ入門)
- (17) 空を春色に染める梅や桜  
(LBs4\_00045 自然暮らしの知恵袋)



## 1b 連体修飾・名詞

- (18) ●金星の自転や地形  
(OT23\_00024 高等学校地学Ⅱ)
- (19) 第1-2-十三図 養育上の不安や悩み  
(OW2X\_00052 青少年白書昭和57年版)

## 2 箇条書きメソッド

- (20) 1 おはなし会
    - ▶ とき 2月2日(土)午後1時三十分～2時
    - ▶ ところ 集会室1
    - ▶ 内容 紙芝居や手遊び
- (OP24\_00002 広報あげお 2008年2号)

# 句読点の省略

- (21) 旅の記憶を辿っていくとその時の情景  
がありありと浮かんでくる#  
いろいろな思い出と 人との再会や出合い#  
多くの建物や 風景が私の心の記憶の小箱  
の刻まれて行く  
(OY13\_03986 Yahoo!ブログ)
- (22) 洞くつ壁に踊る女性やマンモス#仏南西  
部で発見#最古の線刻画か  
(PN1h\_00019 河北新報2001/7/5夕刊)

# タイトルについてもう少し考えてみる

- 仮定: タイトルはNPかCPでなければならない。

→ タイトルは全体として名詞句か文でなければならない。

(23) a 並列表現についての研究

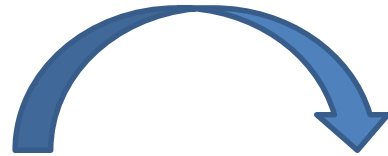
b \*並列表現についての

c 並列表現について

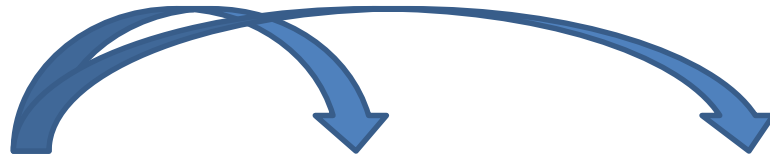
# 提案

- 「と」は2つの名詞句を結合し、1つの名詞句を作るが、「や」は1つの名詞句を作らない。
- 「AやB」は1つの名詞句ではない。
- 「A,B」が1つの名詞句ではないのと同様。

# NPが1つかどうかで係り受けが変わる



(24) 私は毎日 [VP[NP ビールとワイン]を飲む。]  
(+網羅性)  
ビールとワインの両方を飲むという1種類の事態。



(25) 私は毎日 [VP[NP ビール]や[NP ワイン]を飲む。]  
(-網羅性)  
片方か両方かは未指定。(27)と同じ構造。

(26) 私は毎日 [VP[NP ビール], [NP ワイン]を飲む。]  
(-網羅性)

# 1a 連体修飾・述語

- (17) 写真7 発芽したヨモギやタンポポ  
(LBk5\_00014 みんなでつくるビオトープ入門)
- (18) 空を春色に染める梅や桜  
(LBs4\_00045 自然暮らしの知恵袋)

## 1b 連体修飾・名詞

- (19) ● 金星の自転や地形

(OT23\_00024 高等学校地学Ⅱ)

- (20) 第1-2-十三図 養育上の不安や悩み  
(OW2X\_00052 青少年白書昭和57年版)



## 2 箇条書きメソッド

- (21) 1 おはなし会
    - ▶ とき 2月2日(土)午後1時三十分～2時
    - ▶ ところ 集会室1
    - ▶ 内容 紙芝居や手遊び
- (OP24\_00002 広報あげお 2008年2号)

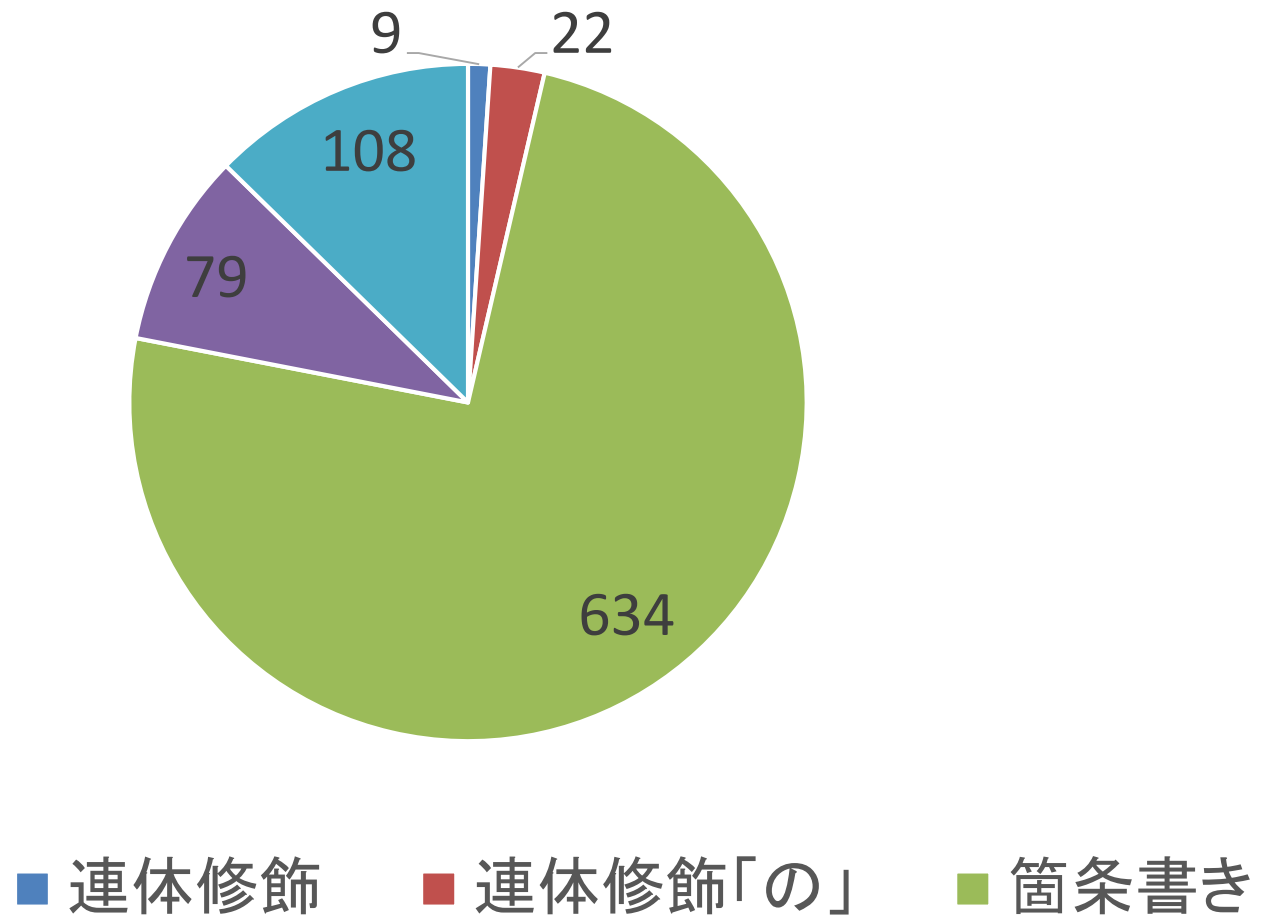
# 句読点の省略

- (22) 旅の記憶を辿っていくとその時の情景  
がありありと浮かんでくる#  
いろんな思い出と 人との再会や出合い#  
多くの建物や 風景が私の心の記憶の小箱  
の刻まれて行く  
(OY13\_03986 Yahoo!ブログ)
- (23) 洞くつ壁に踊る女性やマンモス#仏南西  
部で発見#最古の線刻画か  
(PN1h\_00019 河北新報2001/7/5夕刊)

# さらなる考察

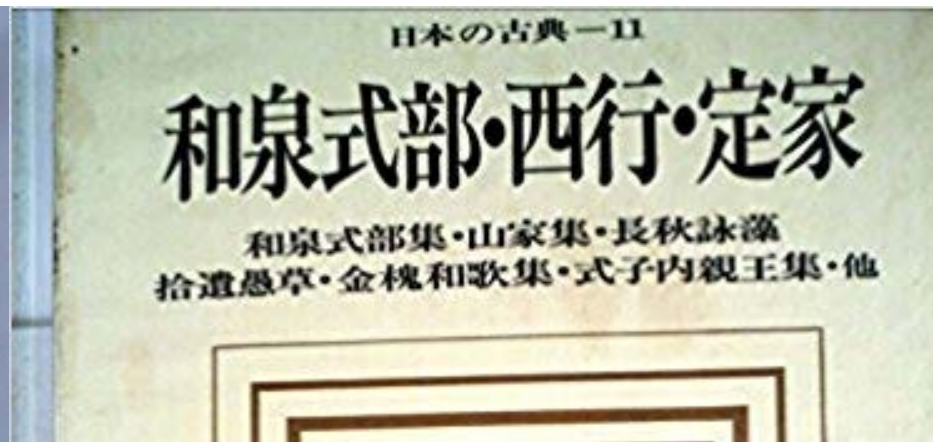
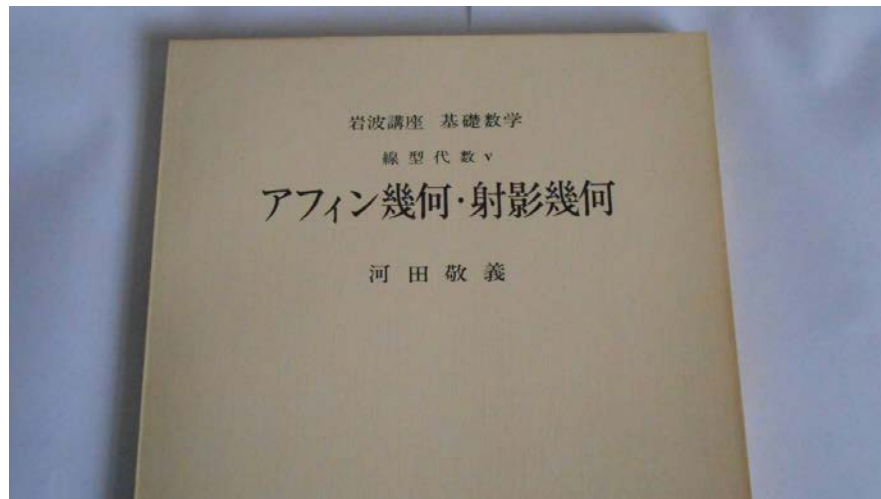
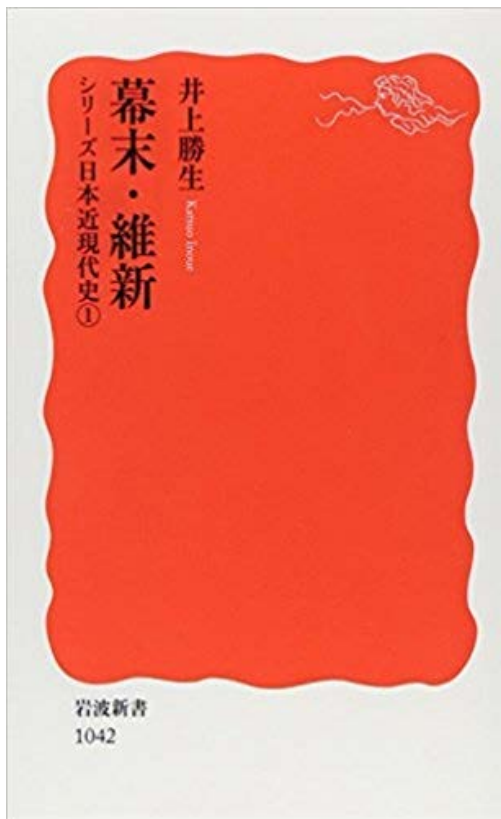
- 「や」は名詞句を並べるだけで、全体で一つの名詞句を作らないからタイトルに使えないのだとしたら。
- 「、」もタイトルには使えないはず。
- 『銃・鉄・病原菌』のような明らかに英語を翻訳したものは例外とする。

# 文末に見られる「NP、NP」(N=852)



# 「その他」が焦点

- その他の例の大半は、辞書の記述など「タイトル」とは見なせないものが多かったが、いくつか節タイトルであるものがあった。
- (27) 気になる症状  
くしゃみ、鼻水  
赤ちゃんは鼻の粘膜が敏感なので  
(LBi5\_00012)
- (28) 用土、肥料  
ハスは品種により一部用土を選ぶものも  
(PB56\_00035)



- 「N、N」  
というタイトルは基本的にシリーズものの一つ。  
→箇条書きメソッドの一種
- 独立して使われるのは「技術・家庭」「微分・積分」などかなり定着度が強いものだけと  
考えられる
- 「N、N」もまた一つの名詞句は構成できないと  
考えられる。

# 「や」が名詞句を構成しないと考えると 説明できる現象

- 主題部網羅性制約(中俣2015:53)
  - (29)a 太郎や花子が毎日この部屋を掃除している。  
B 太郎や花子は毎日この部屋を掃除している。
- (29a)はある日は太郎、ある日は花子という解釈だが、  
(29b)は二人が毎日という解釈



(29)a' 毎日

太郎や花子がこの部屋を掃除している。

b' 太郎や花子は

毎日この部屋を掃除している。

(29a')ではデフォルト解釈により、どちらが掃除をするかは未定で、それより高い位置に「毎日」がある。

(29b')では主題化により、2つの名詞句が「毎日」よりも高い位置に移動したため、「太郎も毎日、花子も毎日」という解釈になる。

# 関係していそうだが、 まだうまく説明できない現象

- 名詞句内非網羅性制約(中俣2015:42)
- (30) 1組と2組の学生は、校庭に集合して下さい。(=1組か2組の学生)
- (31) 1年生の男子と女子
- 「と」が名詞句を結合して1つの名詞句を作るという想定は破棄しなくてよいだろう。
- 「の」の問題か? 「と」で1つの名詞句になった際、格や副詞は構成要素全てにかかるが、「の」は分配的にかかる?

# 一般化すると

- 同一名詞句内では網羅性はキャンセルされる。
- 「～たり～たりする」はこれを利用して述語を非網羅的に並列していると思われる。
- 文よりも小  
「一網羅」 ← 文内 → 文よりも大  
「十網羅」

# 簡単なまとめ

	網羅性	論理関係	他の要素のかかり方	名詞句
AとB	+網羅性	論理積	両方にかかる	1つの名詞句
AやB	-網羅性	論理和	未指定	2つの名詞句
A、B	-網羅性	論理和	未指定	2つの名詞句

4つの列は同じことを表現しているが、本発表では名詞句に限っては、1つの名詞句を構成するか否かという点から説明できると主張する。

「て」や「し」など述語レベルの並列表現についてはこのような説明はできないので、「網羅性」という概念は残しておく。

# 疑問:「や」って何をしてるの？

- 「や」は類似性を元にした集合を作る意味的なオペレーターである。
- 「や」は聞き手に会話以前から長期記憶に蓄えられている様々な知識を使用して、並列させる名詞句に共通の構造または属性を発見させる機能をもつ。よって、聞き手が共通の構造・知識を発見できそうにない時には使用できない。(中俣2015:56)

# 類似性の違い

- (32) 得意な教科は何？
  - A. 数学や理科です。
  - B. ?国語や体育です。
- 中俣(2015)では四段階の許容度判定調査を行い、t検定の結果A. B.に許容度の差があることを確認。

類似性はアド・ホックなものでもよい。

(33) 今からぞうきんかけるから、  
机の上のティッシュの箱やゴミを片付けて。

- 箱とゴミはカテゴリーとしては別だが、この文脈では「邪魔」という共通の属性を持つ。
- Barsalow(1983) Ad-hoc Categories

# こんな例も

- (34) A ?この前のパーティーにあなたの弟や鈴木って人が来てたよ。

B 「この学科にナカムラさんという人はいますか?」「いや、ちょっといませんね。タカムラさんという人やワカムラさんという人はいますか。」

「という」「って」は聞き手が対象について未知であることを示す。よって類似性についても判断できず、Aの許容度は非常に低い。しかし、Bは音声的な類似性があるため許容される。



# コーパスを調べてみた。

- 中俣(2015)では「と」は隣接性に基づいて集合を形成するとした。(類似性に関する制約を持たない)「や」は共通の構造・属性に基づいて集合を形成するとした。
  - 「と」で並列される要素と「や」で並列される要素に意味的な違いがあるのでは？

# 方法

- BCCWJから中納言・長単位モードを使って「普通名詞＋と／や＋普通名詞」という構造を検索。  
(コアデータのみ)
- 対応する名詞になるように目視で加工。  
(案内や情報の提供を行っている。  
→案内や提供)  
複合的なものもできるだけ短くした。
- それぞれの名詞を分類語彙表データと照らし合わせ、分類番号の差の絶対値の差を比較。  
(ロケット=1.428、コンピュータ=1.462。  
年齢=1.1901、持病=1.5721)

# 結果

差	と(N=1,155)	や(N=1,778)
=0	14.3%	13.3%
>0.001	4.2%	3.9%
>0.01	17.1%	19.0%
>0.1	31.6%	30.0%
<0.1	32.9%	33.9%

「と」と「や」の前後の名詞には違いはない！

# 考察

- 中俣(2015)が正しければ、この結果は妥当。「や」は聞き手に「類似性」を発見させる機能を持つのであるから、元から似ているものにしか使えないのだったら、わざわざマークする必要がない。

# 実例をいくつか

(35) 買い物や旅行を一緒に楽しむ母娘も多い。  
→ 共通の属性

(36) 米軍の攻撃の様子やイラク住民の表情などを丹念に追った。  
→ 共通の属性 (アド・ホック)

(37) 市町村合併の是非や組み合わせ  
→ 共通の構造

(38) 万葉集や現代の和歌  
→ 構造が不安定? 「万葉集や現代」というNPは存在しないと考えれば理解しやすいか。

# 結論

- 「と」は2つの名詞句を1つの名詞句に変換する統語的なオペレーターである。これにより網羅的な解釈に限定される。意味には関与しない。
- 「や」は2つの名詞句を類似性をもつ集合として認定する意味的なオペレーターである。統語操作には関与しない。結果として、名詞句並列のデフォルト解釈である多義的な解釈(非網羅的・論理和)になる。

# おまけ

差	と (N=1,155)	や (N=1,778)	、 (N=742)
=0	14.3%	13.3%	20.5%
>0.001	4.2%	3.9%	4.3%
>0.01	17.1%	19.0%	15.9%
>0.1	31.6%	30.0%	30.6%
<0.1	32.9%	33.9%	28.7%

中俣(2015)は「「、」は同一のカテゴリーに属する要素を並列する」と主張した。分類語彙表で同じカテゴリーに入る割合も高い。

# 特性の比較

	と	や	、（参考）
NPの結合	+	—	—
網羅性	+	—	—
集合の形成 動機	— (中俣2015 では隣接性)	共通の構 造・属性	共通のカテ ゴリー
排他的推意	+	—	+



# 参考：網羅性と排他的推意 (中俣2015:133)

	排他的推 移あり	排他的推 移なし
+網羅性	「と」	「も」
-網羅性	「、」・「か」	「や」類

# 参考：網羅性と排他的推意 (中俣2015:133)

	排他的推 移あり	排他的推 移なし
+網羅性	「と」	「も」
-網羅性	「、」、「か」	「や」類

「私は毎日、ビールもワインも飲む」のように「+網羅性」。「ビールもワインも」という名詞句があるかは不明。しかし、「も」はとりたて助詞で、統語的に高い位置に存在。そのため、個々の名詞それぞれが下位の副詞をc統御するので、網羅的な解釈が得られる。

# 参考：網羅性と排他的推意 (中俣2015:133)

	排他的推 移あり	排他的推 移なし
+網羅性	「と」	「も」
-網羅性	「、」・「か」	「や」類

並列助詞の「か」は「、」に終助詞の「か」自身が持っている「選択性」、「不確実性」が加わったものである。「か」自身が並列マーカ―として働くわけではない。

(中俣2015:100)

# 参考：網羅性と排他的推意 (中俣2015:133)

	排他的推移あり	排他的推移なし
+網羅性	「と」	「も」
-網羅性	「、」・「か」	「や」類

「や」類とは「や」「とか」「やら」「だの」のこと。いずれも「-網羅性」「排他的推移なし」「共通の構造・情報に基づく集合」という特性を持つ。ただし、細かい機能の違いは存在する。

# 3. 日本語並列表現の体系

- 3. 1 統語レベルにおける体系
- 3. 2 意味レベルにおける体系
- 3. 3 まとめ

### 3. 1 統語レベルにおける体系




モノの並列である並列助詞では「**一網羅性**」が基本である。

コトの並列である接続助詞・接続詞では「**+ 網羅性**」が基本である。

# 表1 並列表現と網羅性

＋網羅性	－網羅性
と・も・に	や・, ・とか・やら・ だの・なり・か・だか
ば・し・て・連用形・わ	たり・とか・やら・だ の・なり・か・だか
φ・それから・次に・そ して・また・ 一方・なお・さらに・し かも・それに・そのうえ	または・あるいは・も しくは・ ないし・それとも

# 表1 並列表現と網羅性

+網羅性	-網羅性
と・も・に	や、  ・とか・やら・だの・なり・か・だか
ば・し・て・  連用形 わ	たり・とか・やら・だの・なり・か・だか
 φ・それから・次に・そして・また・一方・なお・さらに・しかも・それに・そのうえ	または・あるいは・もしくは・ないし・それとも



# 表1 並列表現と網羅性

<p style="text-align: center;">+網羅性</p> <p>「～X～Xする」という 有標的な形で使われ る</p>	<p style="text-align: center;">-網羅性</p>
<p>ば・し・て・連用形・お</p>	<p>や・, ・とか・やら・ だの・なり・か・だか</p>
<p>φ・それから・次に・そ して・また・ 一方・なお・さらに・し かも・それに・そのうえ</p>	<p>たり・とか・やら・だ の・なり・か・だか または・あるいは・も しくは・ ないし・それとも</p>

# 名詞句内非網羅性制約

- 並列された要素は  
同一名詞句内の複数解釈を  
受ける名詞とは  
網羅的に結びつかない。

# 名詞句内非網羅性制約からの帰結

歌う 踊る

- 動詞を並列する時は「＋網羅性」が基本で、「－網羅性」を表せない！

# 名詞句内非網羅性制約からの帰結

歌ったり踊ったり

## 名詞句扱い

- 動詞を並列する時は「＋網羅性」が基本で、「－網羅性」を表せない！
- 名詞句内が「－網羅性」である性質を利用して、一旦名詞句扱いにする。

# 名詞句内非網羅性制約からの帰結

歌ったり踊ったりする

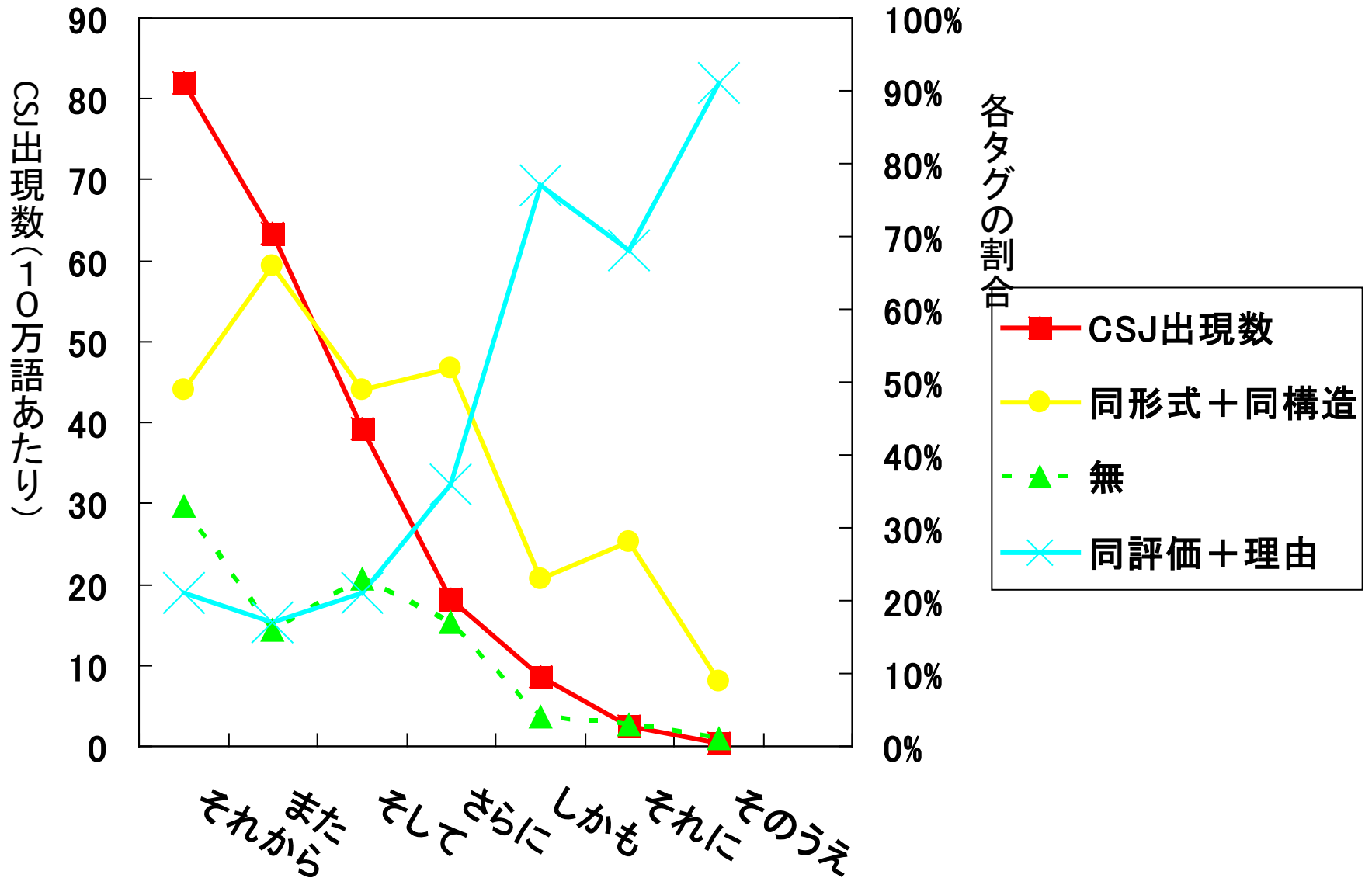
- 動詞を並列する時は「+網羅性」が基本で、「-網羅性」を表せない！
- 名詞句内が「-網羅性」である性質を利用して、一旦名詞句扱いにする。
- 元は動詞なので「する」をつけて動詞に戻す。

## 4. 2 意味レベルにおける体系

従来，単に「集合」とされていたものの内実を詳しく分析した。



# CSJ出現頻度とタグの関係





### 3.3 まとめ

Q 日本語に多様な並列表現が存在するのはなぜか？

A 単に等位接続であるということを表しているのではなく、要素をどれだけ集合として強固に結びつけるか、要素にどれだけ類似性がみられるかということを表しているためである。

並列表現は.....

要素と要素の  
論理関係のマーカ―  
であるとともに、  
意味関係のマーカ―  
でもある。

発表は以上です。

ご意見, ご質問

よろしくおねがいします。

# 参考文献

- 寺村秀夫(1991)『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』くろしお出版
- 中俣尚己(2015)『日本語並列表現の体系』ひつじ書房
- 森山卓郎(2005)「「や」と「と」のちがいをどう説明するか」『京都教育大学国文学会誌』32,1-10.